



# 平成24年産麦類の作柄概況について



農林総合研究センター 水田農業研究所 米・麦担当

## 1 気象概況

### (1) 気温

1 1月は平年より高かったが、以降、3月まで低温傾向で、月平均気温はいずれも平年を下回った。4月以降は概ね平年並に推移した。

### (2) 降水量

1 1月～3月は降雨のない日が多く、特に12月10日～1月19日までは降雨がない日が続いた。月合計では数回まとまった降雨があったため、12月が多雨であった他は4月まで平年並みであった。5月は2～3日に低気圧の通過に伴う137mmの豪雨、6月は19日に台風4号の接近に伴う77mmの豪雨に見舞われ、多雨となった。

### (3) 日照時間

1 1月～4月は3月上旬、4月中下旬等、低気圧や前線の影響により寡照な時期もあったが、概ね平年であった。以降、6月中旬を除き多照で、特に6月下旬は平年の倍以上の多照であった。

### (4) 特徴的な気象と麦類への影響

特徴的な気象	麦類への影響
・ 冬期の低温	・ 麦の生育遅延、出穂の遅れ ・ 基肥窒素の残留による生育後半の茎数、穂数増、長稈化
・ 12月、1月の少雨	・ 麦の生育遅延、12月播種ほ場の出芽遅延
・ 5月2～3日の豪雨	・ 湿害、倒伏の発生による登熟不良
・ 6月19日の台風4号の通過に伴う強風、豪雨	・ 倒伏の助長、稈の欠損 ・ 収穫の遅延
・ 5、6月の多照	・ 登熟の促進

## 2. 作柄概況

### (1) 水田農研 生育相調査結果

#### ア 小麦（農林61号）

出芽、苗立は概ね良好であった。

播種から年内の生育は平年並みであったが、その後の低温により分けつの発生は遅れ、草丈も低く、生育量は平年を下回って推移した。3月以降、遅発分けつにより茎数は平年を上回ったが、草丈は低く、生育量は依然、平年を大きく下回って推移した。

莖立開始期は平年より12日遅い、3月15日であった。

葉位の進展も遅れたが、主茎葉数の減少は見られず、出穂期は平年より8日遅れた。

冬期の低温により基肥窒素の流亡が比較的少なく、肥効が持続したことから、有効化した弱小茎が多くなり、風乾歩合の低い軟弱な生育となった。

また、5月3日の豪雨により倒伏が発生した。その後も台風の接近等により倒伏は進み、収穫時には倒伏程度3.5となり、一部は成熟に至らなかった。

登熟は多照により、倒伏の著しい部分を除き、順調に進み、また、6月に入り気温の上昇に伴い枯れ熟れ的に進んだことから、成熟期は平年の1日遅れにとどまった。

弱小茎の有効化により、穂数は平年より多く確保した。しかし、1穂粒数、千粒重が平年を下回り、収量は平年より減収した。

外観品質は、倒伏部分は劣ったが、比較的倒伏の軽い部分は概ね1等相当であった。

## イ 大麦（はるな二条）

出芽、苗立は概ね良好であった。

小麦同様、播種から年内の生育は概ね平年並みであったが、冬期の低温により生育量は平年を下回って推移した。3月に入ると遅発分げつが多発し、茎数は平年を上回って推移したが、生育量は小さく、茎立ちも平年より14日遅れた。

葉位の進展も遅れていたが、主茎葉数の減少は見られず出穂期は平年より9日遅れた。

また、小麦同様、倒伏が発生し、収穫時には倒伏程度1.5程度となった。

登熟は多照により順調であったが、成熟期は出穂期の遅れに伴い平年より6日遅れた。

収量は弱小茎の有効化により、穂数を多く確保したことから、平年比126と多収であった。しかし、整粒歩合が低く、整粒重（2.5mm以上）では概ね平年並であった。

## （2）県内全般

播種作業は概ね順調に行われたが、大麦の約1割、小麦の約2割は12月播種となってしまった。（農業支援課調査）

所内同様、年内は平年並の生育であったが、冬期の低温により遅れ、3月以降、遅発分げつにより茎数は多くなったものの、生育量は小さく推移した。特に12月播種のもの、低温と少雨により出芽、苗立が遅れ、生育量は著しく少なく、収量も大きく減収した。

出穂期は平年に比べ大麦では1週間～10日、小麦では1週間程度遅れた。

穂数は弱小茎の有効化により大麦、小麦とも平年並からやや多く確保した。稈長もやや伸長し、台風の接近等による豪雨などもあり、一部では倒伏が発生した。

成熟期は大麦、小麦とも出穂期の遅れに伴い、一週間程度遅れた。このため、収穫も平年に比べ遅れ、小麦では6月下旬が収穫のピークとなった。

収量は、穂数は平年より多く確保されたが、全般に小粒で整粒歩合が低下したため、概ね平年並みと思われる。

表1 耕種概要 (水田農研 生育相調査)

播種様式	条間 (cm)	麦種	品種	播種期(月日)		播種量 (kg/10a)	施肥量(N:kg/10a)	
				本年	平年		元肥	追肥(6~7葉期)
ドリル播	30	小麦	農林61号	11.10	11.9	8	8	2
		二条大麦	はるな二条	11.10	11.9	6	7	0

表2 生育調査 (水田農研 生育相調査)

品種		出芽期 (月日)	苗立数 (本/m <sup>2</sup> )	苗立率 (%)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期調査			倒伏 程度
							稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	
農林61号	本年	11.18	181	86	4.25	6.11	94	8.2	649	3.5
	平年	11.19	179	88	4.17	6.10	95	8.0	596	—
	平年比(差)	-1	101	-2	8	1	99	103	109	—
はるな二条	本年	11.18	127	88	4.14	5.27	104	5.1	810	1.5
	平年	11.19	134	93	4.5	5.21	93	4.8	701	—
	平年比(差)	-1	95	-5	9	6	112	106	116	—

注) 1. 農林61号の成熟期は倒伏により一部、達しなかったため、倒伏程度の軽い部分で判断した。

2. 倒伏程度は0~5の6段階評価

表3 収量及び収量構成要素 (水田農研 生育相調査)

品種		藁重	精子 実重	整粒重	有効 穂数	1穂 粒数	m <sup>2</sup> 当 粒数	千粒重	1リットル重	整粒 歩合
		(kg/a)	(kg/a)	(kg/a)	(本/m <sup>2</sup> )	(粒)	(千粒)	(g)	(g)	(%)
農林61号	本年	59.5	48.7	48.2	559	22.7	12.7	37.0	780	99.4
	平年	60.4	51.2	50.9	506	23.6	11.9	38.4	798	99.5
	平年比(差)	99	95	95	110	96	107	96	98	-0.1
はるな二条	本年	54.6	55.6	37.8	851	18.7	15.9	37.0	645	67.6
	平年	52.1	44.0	37.0	684	19.1	13.2	38.6	716	83.8
	平年比(差)	105	126	102	124	98	121	96	90	-16.2

注) 1. 精子実重は風選により屑麦を除いた重量、整粒重は篩選(小麦2.0mm、ビール大麦2.5mm)後の重量。

2. 整粒歩合は、篩選(小麦2.0mm、ビール大麦2.5mm)による。

3. 精子実重、整粒重、千粒重、1リットル重は水分換算値(小麦12.5%、大麦13%)。

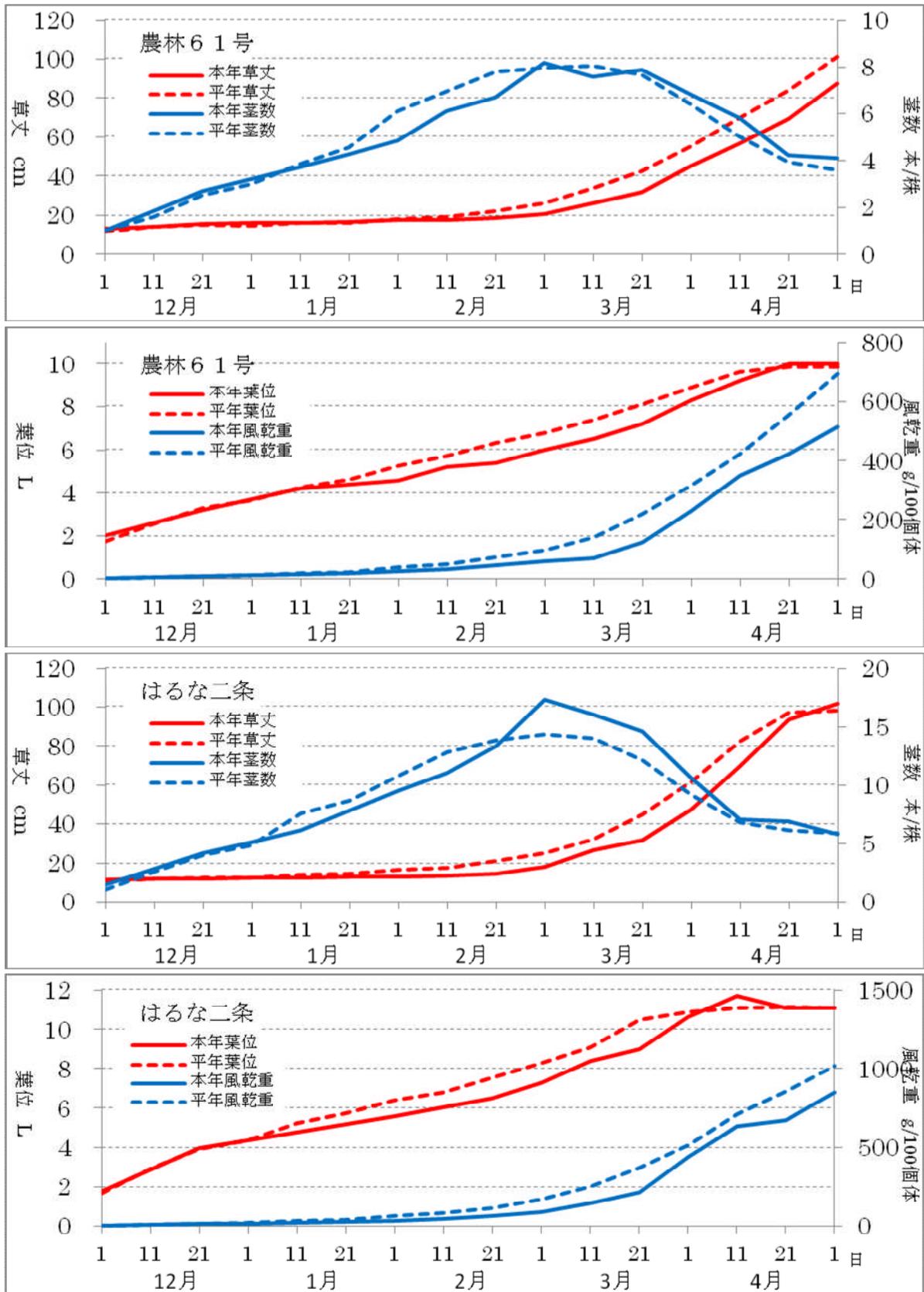
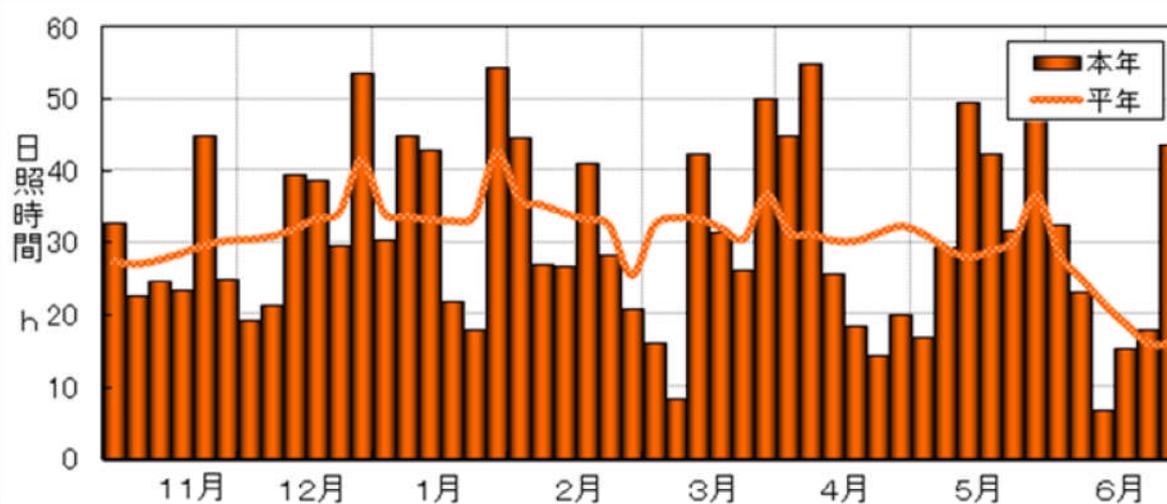
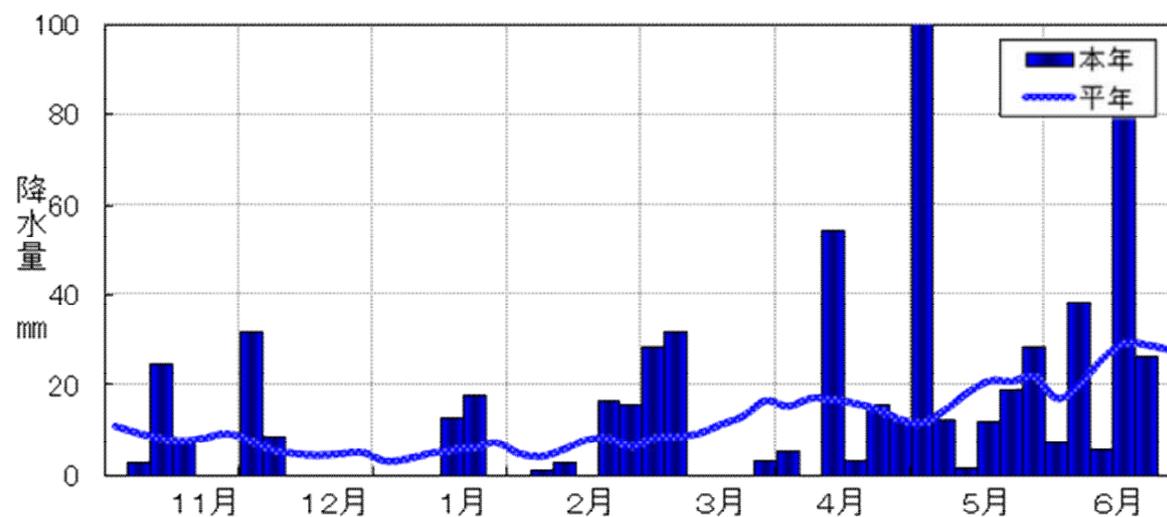
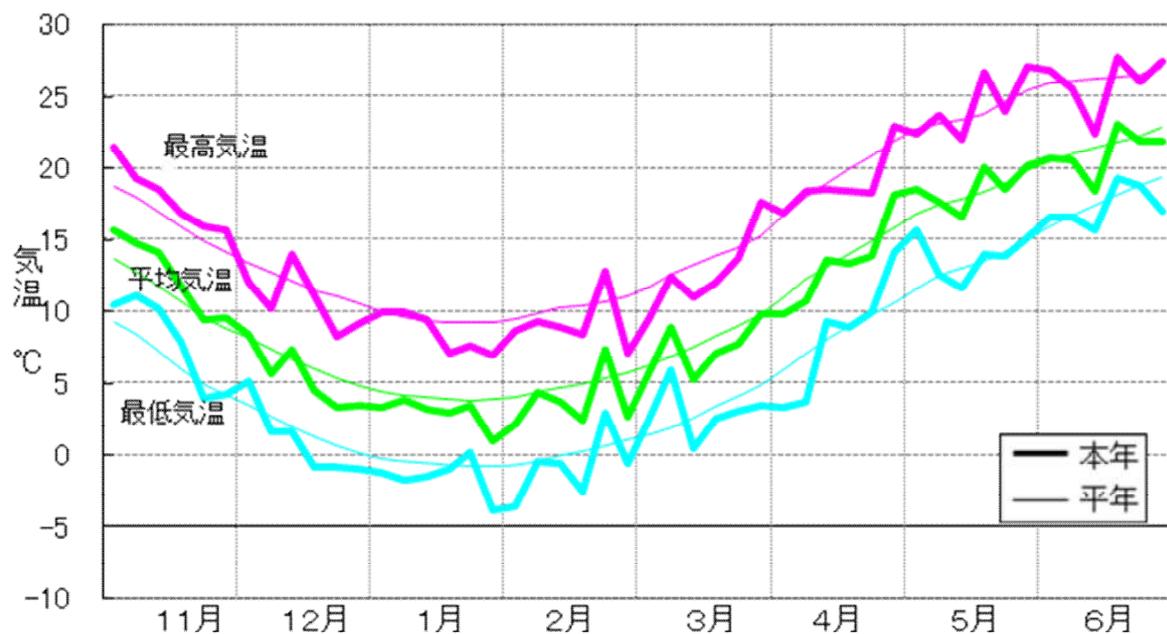


図1 生育経過



平成24年産麦作気象図 (熊谷地方気象台データ)